



「6年生不在の日」の朝の光景

今日28日(月)は、6年生が修学旅行を明日に控え、自宅にてオンライン授業の日でした。コロナ感染症予防対策として、土～月曜日と三日間、子供たちの接触をなくすための措置です。同様の対策は5年生の集団宿泊教室でも行います。

朝、交通指導に立っていると、箒を手にした5年生が、落ち葉掃きを始めました。一人で黙々と落ち葉掃きをしてくれます。そこに友達も加わって、落ち葉掃きの輪が広がっていきました。また、正門の花壇にもジョーロで水やりをしている環境委員会の子供たちがいました。さらに、生活委員会の子供たちもあいさつ運動に立ってくれました。これは憧れの6年生が今日は不在であることを知り、「🟡帯西イエロー」の心で自分たちが学校のリーダーとして動くべきだと判断してくれた結果だと思えます。また、「🔴帯西レッド」の心をはたらかせて、このチャンスを自分の成長にかそようと張り切っていた5年生の姿が、いつの間にか成長していて、頼もしく思えてなりませんでした。



●ひこうきぐも✈ vol.12

アメリカで一番見たかったのは、グランドキャニオンです。数億年の歳月とコロラド川の急流が創りあげた大自然の驚異、宇宙から見える地上唯一の地形、大地の歴史を刻み込んだ壮大な地球史の博物館、と様々な形容を耳にします。

私は、はやる気持ちを抑えながら、ロサンゼルスから、車で地平線のかなたに続く道をグランドキャニオンに向かって走りました。途中、地平線から昇る朝日は、運転で疲れている私を励ましてくれました。

いよいよグランドキャニオンに着き、足元に広がる景色を目の当たりにすると、全ての言葉は意味を持たなくなります。何という大きさだろう!そこにいる自分がちっぽけな存在、というよりむしろ存在そのものを忘れてその景色に引き込まれてしまいます。私は時の経つのも忘れて、一日中グランドキャニオンを見て回りました。太陽光線によって、時間の経過と共に、山肌の色が変わり、色彩が変化していくのです。私はすっかり心を奪われてしまいました。

グランドキャニオンの帰り、話の種にと思いラスベガスに立ち寄りました。砂漠の真ん中に突如として街が現れます。街の中のコンビニにもスロットマシンが設置してあるのです。決戦の火蓋は夜と思い、夜まで街を散策し、時間をつぶしました。「ここで負けたら、もう日本に帰ろう。」と考えていたので、最期の思い出作りという気持ちでスロットやポーカーなどを楽しみました。ゲームの方は一進一退で思うようにいきませんでした。「キノ」というゲームをしたときです。自分の好きな数字に何気なく1ドルかけました。すると何とビンゴです。ランプが点滅し、従業員が千ドル持って来て、「おめでとう!」と言ってくれました。これでまたアメリカでの滞在期間が延びたのです。



※「ひこうきぐも」は、あくまでも荒木が旅をした当時、約30年前の街の様子です。現在とは状況に違いがあることをご了承ください。